渋谷区立

松濤美術館

あんない

〒150 東京都渋谷区松濤二丁目14番14号 電話465-9421



◎特別展

ガラス絵

-ヨーロッパからアジアへの流れ-

広東港内の景

浜松市美術館蔵

ガラス絵は日本で古くは「ビイドロ絵」と呼ばれていました。透明な板ガラスの裏面から油絵技法で描かれたガラス絵は、ガラスの被膜によって画面の乱反射がなく絵具の冴えた色彩が大きな魅力の一つとなっています。

ガラス絵は14世紀頃、板ガラス製法の発達と油絵技法の完成とが結合し、ヨーロッパにおいて発祥しました。当初は、宗教的題材を扱った素朴な絵画として民衆の中に流布しました。次第にこの技法は西欧、特にオランダ、イギリスに拡大され、宗教画から世俗画へと変遷し、又、新たな技法が確立され精緻な表現を獲得してゆきました。

17世紀以降、ヨーロッパ各国の東インド会社の出現により、ヨーロッパ・アジア間の貿易は飛躍的に増大しました。これを背景とし、ガラス絵がアジアに伝播され、各地で盛んに制作されるようになりました。当時、アジアの人々にとってガラス絵の持つ魅力は、西洋の風物・風俗に対するエキゾチズムばかりでなく、油絵技法のもつ迫真的な描写にもあったと思われます。

中国においては、広東を拠点とし画工の手になる驚くほど精巧な表現でガラス絵が制作されました。インドネシアでは、宗教的な伝統的図像を題材に取り上げました。そして、18世紀末の日本では、鎖国下にあって唯一の外国貿易との窓口であった長崎を経て流入し、その初期には長崎系と呼ばれる異国趣味濃厚なガラス絵が生み出されました。しかし、次第に、江戸、上方と各地に広まるにつれ、浮世絵風美人画・名所風景が描かれるようになり、日本独自のガラス絵の様相を呈してきました。

アジア各地では、伝播初期のヨーロッパガラス絵の 模倣、あるいは、ヨーロッパ向け輸出のために制作し た時期を経て、急速にその国々個有の状況に合せ土着 性を強めてゆきます。僅かの例外を除いてほとんどの ガラス絵は無名の人々の手によるものであり、油絵技 法の定着とともに民衆の中で生き続けたのです。

この展観では、ヨーロッパ、中国、インド、インド ネシア、そして日本で制作されたガラス絵約70点を陳 列いたします。

●講 演 会

- 6月24日(日)午後2時~ 「近世ヨーロッパ油絵技法の アジアへの伝播とガラス絵の役割」 多摩美術大学教授 佐々木静一
- 7月7日(土)午後2時~ 「ヨーロッパとアジアの

ガラス絵技法について」

多摩美術大学助手 平井 達郎



▲江湾風景 日本民藝館蔵

渋谷区在住作家の作品 (出品作家・五十音順) 特別陳列

〈洋面〉

川端実 西嶋俊親

〈版画〉 ガストン・プチ 伊藤降康

〈彫刻〉

清原啓一

森 芳 雄 〈漆画〉

助川武史

五 味 秀 夫

入山白翁

堀内正和

近岡善次郎

吉本直貴

◎美術相談

専門知識と経験豊富な美術作家を招き、みなさまの文化活動の援助になれば と、美術(制作)相談室を開設いたします。

どのような事でも御相談ください。

●相談日 6月24日(日) 午前10時~12時 (洋)磯村敏之 (日)荒井朝吉 7月22日(日) 午後1時~4時 (洋)宮田翁輔 (日)滝沢具幸

8月4日(土) 午後1時~4時 (洋)遠藤原三 (日)荒井朝吉

- ●相談内容 洋画・日本画を中心に、みなさまの制作作品を見て、相談指導をいたします。 また、美術史・美術図書などの相談もお受けいたします。
- 相談員美術作家及び当館学芸員
- ●申込方法 準備の都合上、事前に電話で相談内容を申し込んでください。

◎美術映画会

- 7月1日(日)午後2時~「コロー、ミレー、クールベ I・II」
- 7月15日(日)午後2時~「世紀末画家ロートレックⅠ・Ⅱ」
- 8月5日(日)午後2時~「セザンヌ I・II」

◎会期昭和59年6月19日(火)~8月5日(日)

◎休館日 第2日曜日及び他の週は月曜日、祝日の翌日 6/25(月)・7/2(月)・7/8(日)・7/16(月)・7/23(月)・7/30(月)

◎開館時間 午前9時~午後5時(ただし、入館は4時30分)

◎入館料

	個人	団体(20人以上)
— 般	200円	160円
小中学生	100円	80円

